



授業科目名	地域貢献ボランティア				履修期	2021年度 春学期～秋学期		
担当者	大下 朋子、池上 真由美					NO.	GE-KE-2-003	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	実習	
テーマと到達目標	「地域貢献ボランティア活動を通して地域社会に積極的に参加できる人材となること」をテーマとする。外国学科のディプロマポリシーの一つとして、学生が卒業するまでに「海外の人々に自分と自国について自信を持って語り、失敗を恐れず未来に向かってチャレンジし続ける態度」を身に付けることを目標としている。本科目は、その目標を達成する一助として位置づけられた科目である。具体的には、フジアーノ岡山のホームゲーム活動、前日準備、スタッフ交流イベントにおけるボランティア活動への参加である。学生は、ボランティアを通して、地域の人々と共にふれあい、活動することで、地域社会に貢献しようとする心や姿勢を持ち、地域社会の一員として積極的に活動できる人材の育成を到達目標とする。							
概要	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアを行う。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学ぶ。その後、フジアーノ岡山のホームゲーム活動、前日準備、スタッフ交流イベントにおけるボランティア活動を15コマ分(30時間以上)行なう。受講生はボランティア活動の予定表(5月～12月末まで)から活動時間合計30時間以上になるよう選択し、活動を行う。学期毎に、活動報告会を設けプレゼンテーションを行う。ボランティア活動内容について活動報告書(1,000字以上)を作成する。 【実務経験のある教員による授業】 地域貢献に関する実務経験者を外部講師とし、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義を学ぶ。							
評価方法	ボランティア活動の内容および活動報告書、発表会内容等により、授業の到達目標についての達成度をトータルで評価する。具体的には、ボランティア活動状況60%、プレゼンテーション20%、活動報告書20%のウエイトにより評価する。							
履修条件・注意事項	本科目の履修希望者は、必ず初回のオリエンテーションに参加すること。履修登録までに、大学が加盟する任意保険(学生教育研究災害傷害保険「学研災」)に加入すること。ボランティア活動時は、ボランティアカードと学生証を携帯し、受入れ事業者の指示に従い、事故に注意すること。ボランティア終了時には、活動時間を記入し、事業者に終了確認印を受領すること。							
自己学習	ボランティア活動に参加する前に、参加するボランティア活動の内容についてインターネットなどを活用して調べておくこと。また、ボランティア終了後にはその都度活動の内容について振り返りを行い、記録を整理しておくこと。予習及び復習には各2時間程度を要する。							
オフィスワ-	毎週火曜日2時限(池上)／毎週木曜日4時限(大下)							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
1. ボランティア活動の基礎的理解 2. ボランティア活動の注意点と活動計画作成 3. ボランティア活動 4. ボランティア活動 5. ボランティア活動 6. ボランティア活動 7. ボランティア活動 8. 活動報告①	講義 講義 実習 実習 実習 実習 実習 プレゼン	池上・大下 外部講師・池上・大下 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 池上・大下	9. ボランティア活動 10. ボランティア活動 11. ボランティア活動 12. ボランティア活動 13. ボランティア活動 14. ボランティア活動 15. 活動報告② 16. 試験(活動報告書)			実習 実習 実習 実習 実習 プレゼン レポート提出	外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 池上・大下 池上・大下	
教科書 1	資料を適宜配布							
教科書 2								
参考書 1	ボランティア論 著者:柴田謙治他 出版社:みらい ISBN:978-4-86015-206-2							
参考書 2								

授業科目名	キャリア開発 I				履修期	2021年度 春学期			
担当者	高木 秀明					NO.	GE-CG-1-001		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	<p>テーマ:ディプロマポリシーの「態度」を達成するために、在学中に国内外の社会について関心を持つとする態度を育み、卒業後の進路、社会的・経済的自立を見据えた学生生活の建設的計画を考える。</p> <p>到達目標:教養・コミュニケーション力・自立性・責任感・判断力など社会が求めている人間像について考え、各自が具体的な目標を掲げて学生生活を過ごすことのできる基礎力を身につけること。</p>								
概要	<p>卒業後を見据え、学生生活を有意義におくるための意識づくりをする授業である。大学生としての授業の受け方、自己の現在の学力を知るための基礎学習講座、実社会を理解するための新聞などのメディアを読み解く授業を織り交ぜながら、自己形成に第一歩踏み出す。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、メンタルヘルスについての実務経験のある外部講師を招き、大学生が学修や課外活動などの場面においてメンタルヘルスを保つための方法などについての学生の理解を深める。</p>								
評価方法	発言回数などの授業への参加度+授業毎の提出物:60%、単位認定試験40%								
履修条件・注意事項	キャリア開発Iでは、学外から講師の先生をお招きして、外国学科での大学生活を有意義にする様々な知識や習慣を身につけられる授業を行う回もある。自己学修はもとより、真摯な態度で授業を聴講すること。								
自己学習	毎回の授業内容のノートテイク、配布資料の整理をしっかり行うこと。ノートに記録した事項を十分に咀嚼して次回の授業に望むこと。その次の授業前には、前回までの学習内容がきちんと頭に入っていることが重要である。復習と併せ、授業前には予習の代わりともなる社会の話題把握に努め、授業に臨むこと。								
オフィスワ-	水曜日4時限114研究室								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. メンタルヘルス 3. 性格・適正・行動計画を立てる 4. 基礎学習講座1・大学生活の基礎 5. 大学生のキャリア開発 6. なぜ敬語を使うのか 7. 新聞活用・新聞の読み方を学ぶ 8. 労働関係法規 9. 留学×キャリア 10. 他者との協力・共有 11. 自分を知る 12. 自分を伝える 13. 基礎学習講座2・適正から自分の強みを見つける 14. 世の中を考える 15. キャリアマインドを育成する 16. 単位認定試験			講義 講義 講義・GW 講義・GW 講義・GW 講義 講義 講義 講義 講義・GW 演習 演習 演習 講義・GW 演習 演習 レポート	高木 池本・高木 高木・外部講師 高木・外部講師 高木・外部講師 高木・外部講師 高木・外部講師 高木・外部講師 高木・外部講師 高木 高木 高木 高木・外部講師 高木 高木 高木					
教科書 1	各回、プリント等を配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	日本国憲法				履修期	2021年度 春学期			
担当者	入江 祥子					NO.	GE-SI-0-001		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	<p>&lt;到達目標&gt; 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。</p> <p>&lt;テーマ&gt; 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。</p>								
概要	<p>法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。</p> <p>*実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。</p>								
評価方法	受講態度及び取組姿勢30%、各講義の最後実施する理解度を問う小テストの評価30%、定期試験40%の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。								
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること(特に私語、授業途中の入退室等)は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。								
自己学習	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。								
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回:なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか			講義	入江					
第2回:法とは何か、法はなぜ必要か、法と道德の違い			講義	入江					
第3回:法源とは何か、成文法、不文法			講義	入江					
第4回:憲法とは何か、実質的意味の憲法、立憲的意味の憲法			講義	入江					
第5回:憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法、成立背景、特徴			講義	入江					
第6回:国民主権の意味、その役割			講義	入江					
第7回:戦争の放棄、「戦争」の意味、「戦力」の意味			講義	入江					
第8回:人権の享有主体性、外国人の人権			講義	入江					
第9回:私人間効力の問題			講義	入江					
第10回:人権保障の限界、「公共の福祉」の意味			講義	入江					
第11回:「権力分立」の意味、権力的契機、正当性の契機			講義	入江					
第12回:国会の制度意義、その構成及び役割			講義	入江					
第13回:内閣の制度意義、その構成と役割			講義	入江					
第14回:裁判所の制度意義、その構成及び役割			講義	入江					
第15回:地方自治について			講義	入江					
第16回:試験			試験	入江					
教科書 1	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。								
教科書 2									
参考書 1	六法								
参考書 2									

授業科目名	民法				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	入江 祥子					NO.	GE-SI-0-002	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	民法を具体的事例をまじえ概括的に講義する。 社会生活において陥りがちな法的トラブルを認知し、未然に回避するもしくは自ら解決するためのスキルを身につけることを達成目標とする。							
概要	民法全体のアウトラインを事例、判例をまじえ講義する。私法全体に共通する基本原理を中心に解説する。  * 実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。							
評価方法	毎回授業後に実施する理解度チェック小テストの結果:40% 最終評価試験結果:60% により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。							
履修条件・注意事項	授業の進行上、授業計画より前後する可能性があります。 出欠数及び配布物の管理は各自で行ってください。 公欠は学校所定の手続きを行ったうえで、申し出てください。							
自己学習	予習としては、教科書の該当箇所を必ず一読しておくこと。 復習は、習得した知識の定着につとめ、時事問題についても考察できるよう発展させること。							
オフィスアワー	質問等は講義時間前後に講義室にて受けます。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			第1回:民法とは何か 第2回:民法の基本原則 第3回:民法における権利と義務 第4回:法律行為とは何か 第5回:代理制度 第6回:時効制度 第7回:契約 第8回:所有権・その他物権 第9回:民法における不法行為 第10回:事務管理・不当利得 第11回:弁済・債務不履行 第12回:家族法 第13回:親子関係にかかわる制度 第14回:相続制度 第15回:法人制度 第16回:最終評価試験				講義	入江
教科書 1	『民事法入門』(第6版) 著者:野村豊弘[著] 出版社:有斐閣 ISBN:978-4-641-22029-4							
教科書 2								
参考書 1	六法							
参考書 2								

授業科目名	日本の芸術				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	山崎 仙狹、高木 秀明					NO.	FS-FS-1-003	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>「外国の人々に伝えるための日本の芸術を理解する。」をテーマとして、国際交流の場面でもよく話題にあがる茶の道と関連する香・庭・花・道具について歴史的な背景と現代の作法などを学び、外国の人々に伝える場面において自ら考え、行動に結びつけるための能力を身につける。英語力がつけば、本講義で身につけたことを英語で表現できるようになる。</p> <p>具体的には、本講義を単位修得したのち、2年次秋学期には英語で本講義で得た知識を外国の人々に説明できるようになることを到達目標とする。</p>							
概要	<p>外国の人々に日本固有の〈美〉とはどのようなものかと尋ねられたら、どう答えたらよいのだろうか。本講義では、日本人が創造してきた〈美〉に関するものから日本の茶の道を中心にそれを取り巻く菓子・香・庭・花・道具そして心がけや立居振舞について学び、日本人に共通して流れている美的感性とそれに基づく心がけや立居振舞について考えながら、幅広い教養としての日本の芸術に関する知識を身につける。そして、この科目で得た能力をさらに英語で表現できるようになることも念頭において、授業に取り組んでいただく。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、茶道・華道・禅を実践している実務家による科目である。また、それらを海外でも実践されている。地域・日本・海外という場における日本の芸術文化を実践・体系的に学ぶことができる科目である。</p>							
評価方法	<p>発言頻度や発言内容等、授業への取り組み度によって達成度を評価する。また、最終到達目標が、英語で説明できるようになるためには、全15回の内容は、理解できていないといけない。したがって、成績評価は、授業内での質問に対する応答(50%)、内容確認のための単位認定試験(50%)のウエイトにより評価する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には減点する。</p>							
履修条件・注意事項	<p>実践的な作法等を学ぶ授業が主であるので、真摯な姿勢で受講すること。特に和室での授業もあるので、毎回、ソックス等を着用するなど、身支度にも気を付けること。 授業で使用する懐紙、茶、菓子、花など、各自で使用・制作した教材は必ず自宅に持ち帰ること。 学外で授業を土日に行う場合がある。</p>							
自己学習	<p>予習として、日本の文化について、日々の生活の中でも疑問をもちそれを解決するよう調べることを勧める。授業内容を正確に理解するために、ノート作成と復習が必要である。</p>							
オフィスアワー	月曜日1時限高木研究室で行う。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 茶の来た道</li> <li>2. 中国・日本の茶の歴史</li> <li>3. 栄西について</li> <li>4. 栄西踊りについて</li> <li>5. 栄西とお茶</li> <li>6. 菓子のことールーツから現在まで(菓子の歴史)</li> <li>7. 菓子のことールーツから現在まで(1500年代の菓子をつくる)</li> <li>8. 香のこと(香の歴史・種類・目的)</li> <li>9. 庭のこと(庭から露路への歴史)</li> <li>10. 花のこと(花の歴史)</li> <li>11. 花のこと(花をアレンジする)</li> <li>12. 道具のこと(茶碗・食事の仕方)</li> <li>13. 染のこと(紅花で布をそめる)</li> <li>14. 心がけー日本人として知っておきたい文化と常識</li> <li>15. 立居振舞(和室にて菓子と抹茶について)</li> <li>16. 単位認定試験</li> </ol>			講義 講義 講義・実習 FW 講義 講義  講義・実習  講義・実習  講義・実習  講義 講義・実習  講義・実習  講義・実習  講義・実習  講義・実習  筆記試験	山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎  山崎  山崎  山崎  山崎  山崎  山崎  山崎  山崎  山崎	
教科書 1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

